

駐日キューバ大使館より、キューバ研究室の新藤通弘さんがまとめられた(22.08.21)石油備蓄タンク火災の様子が共有するため届けられましたので、お届けします。

5日金曜日 午後7時、キューバ西部にあるマタンサス港の8基*ある石油備蓄タンク施設の1基(第51号)が悪天候の中で落雷により炎上しました。第一消火隊の15名の保安要員は、5分もかからず現場にかけつけ、放水と泡沫で消火に当たりました。

*10基という報道(ロイター、APなど)もあります

石油備蓄施設は、各50,00トンの貯蔵能力をもち、合計



400,000トンに上るキューバ最大の施設で、近くにキューバ西部に電力を供給するアントニ

オ・ギテラス火力発電所(発電能力280MWH)にキューバ産原油燃料が供給されています。深夜、同火力発電所は、まだ運転を継続していました。

6日土曜日 キューバ政府は、ディアス=カネル大統領、マレーロ首相、モラーレス共産党中央委員会組織担当書記の三首脳が5日夜深夜に現地へかけつけるとともに、午後3時、直ちに事態の複雑性から、石油問題で経験の深い海外の政府(米国を含む)に支援と助言を要請しました。ディアス=カネル大統領は、避雷針の破損の問題を、将来同じ事故を防ぐために後ほど検討しなければならないと、述べました。ここには、火災が破壊活



動によるものかという疑問は全く表明されていません。

午前5時、隣接した2番目のタンク(第52号)が爆発し、消防士1人(フアン・カルロス・サンターナ)が死亡しました。一番目のタンクは、キューバ産原油26,000トン

を貯蔵していました。

炎上タンクの消火、隣接するタンクへの延焼の防止、貯蔵タンクからの重油の排出と他の場所への輸送、負傷者の介護、住民の健康および環境への影響、など厳しい難題に当局は、徹夜で対処しました。マタンサス市民、4,800人が避難しました。125人が負傷、14人(当初17名)が消息不明と発表されました。

土曜日から日曜日にかけての深夜、メキシコ、ベネズエラから救援の専門家127名が、支援物資とともに到着



し、すぐさま救援活動に加わりました。メキシコから供給された泡消火剤45,000リッターも投入されました。アルゼンチン、コロンビア、ドミニカ共和国、EU諸国など多くの国が支援を申し出ました。米国は、電話で技術的な助言を行うにとどまり、在キューバ米大使は、「マタンサスの状況を注意深く見守っている」と述べ、消極的な態度を示しました。

7日日曜日 早朝から近接のタンクから、困難な中で少量ながら、重油の排出が始められました。アントニオ・ギテラス火力発電所は、まだ運転を継続していました。しかし、夜、冷却作業を行っていた3基目(第50号)のタンクが爆発しました。

8日月曜日 午後、4基目のタンク(すでに燃料は排出されていました)も危険な状態となり、タンクに延焼、爆発が起きて、施設の40%が破壊されました。アントニオ・ギテラス火力発電所も水不足により発電を停止し、大規模な停電が発生しました。1番目のタンクは、鎮火しましたが、残りのタンクの火災は、拡散する一方で、鎮火のめどが立たない状況でした。メキシコの消火艇がマタンサスに到着しました。キューバ革命軍のヘリが、第3タンクに空中から水を投下し消火にあたりました。各国政府、個人から数百の見舞状が届きました。



9 日 火曜日

さらに多くのヘリコプターが消火活動に加わり、メキシコから送られた2隻の消防

艇や重機も消火活動に参加しました。メキシコとベネズエラから、航空機16便による消火機材が到着しました。残りの4基への延焼が制圧され、ようやく鎮火に向かいました。

4基のタンクすべてが焼失した時点で、この火災で、どれくらいの燃料が失われたのか、当局では明らかにしていません。当局が発表した2基のタンクで78,000トンの原油と重油が失われ、他の2基も相当の量が失われていると推測され、筆者は、火災による損害総額は数億ドルに上ると推計しています。米国の経済封鎖の強化、新型コロナによる経済への影響、国際的なインフレの中での経済の停滞、外貨不足に苦しむキューバにとって、近年にない大きな困難をもたらすものです。

火災は、マタンサス工業地帯の小規模発電装置群が存在する、キューバ石油公団の主要門まで及びましたが、延焼は防がれました。

10 日 水曜日 メキシコ、ベネズエラから供給された消火ホースの連結問題も克服され、放水作業が順調に行われ、火災は鎮火の方向に大きく前進しました。未火災のタンク4基への地上及び空中からの冷却、部分的に残っている火災部分の消火が懸命に行われました。火災部分の地面の整理、搬送路の整備が開始されました。

アントニオ・ギテラス火力発電所は、小規模発電基群を連結し、送電を再開しました。



11 日 木曜日 当局は、爆発した2基のタンクのいくつかの部分的な火災の残りをのぞき、ほぼ鎮火に成功したと発表しました。ディアス=カネル大統領は、48時間以内に行方不明者の捜索を開始すると発表しました。この日、石油タンク1基目の火災で負傷し、治療中のエリエル・コレア消防士が死亡。2人目の犠牲者でした。

12 日 金曜日 午前7時、当局は、火災は完全に鎮火されたが、爆発により拡散された石油が再発火しないように警戒を続けていると発表しました。医療専門家7チー

ムが行方不明者の捜索を開始しました。

13 日 土曜日

この日から、直ちに復旧作業が開始されました。

火災が一部

残っている中で、ミゲル・ディアス=カネル大統領は、スーパータンカー基地の火災による汚染の影響を緩和し、住民を保護するためにあらゆる手段を講じると表明しました。

これらの影響を調査する戦略の一環として、ペレス・モンテヤ科学技術環境大臣は、マタンサス県北部海岸、マヤベケ、ハバナ、アルテミサの一部など、最も危険性が高い場所ごとに空気の汚染状態をすでに監視していると発表しました。

14 日 日曜日 月曜にアルゼンチンからキューバに医薬品が到着すると発表されました。

15 日 月曜日 ディアス=カネル大統領は、マタンサスでの火災の消火に協力したメキシコ人消防士とベネズエラ人消防士に改めて感謝の意を表明しました。一方、継続して行方不明者の困難な捜索が続けられました。ポルタル・ミランダ保健大臣は、これまでに発見された遺体の破片の分析という困難かつ繊細な任務に対し、極めて専門的な作業が行われていると述べました。

16 日 火曜日 午後、ディアス=カネル共産党中央委員会第一書記、共和国大統領と、モラレス・オヘダ組織担当中央委員会政治局員が主宰した「被災地の復旧活動を確認する会議」で、今回のマタンサス工業地帯の災害による大打撃からの復興に向け、あらゆる分野、あらゆる面で作業が続いており、今後もしなければならないと強調されました。

17 日 水曜日 ディアス=カネル共和国大統領は、2022年8月18日午前6時から19日午後12時までの公式服喪を布告しました。

ディアス=カネル大統領は、メキシコのロペス・オブラドール大統領と電話会談を行い、火災救助への謝意を

伝えました。メキシコはベネズエラとともに、マタンサス超大型タンカー基地の火災に対処するため、専門の人材と化学装置による支援を行いました。8月6日（土）未明、メキシコ空軍のボーイング 737-700 型機が、軍人 60 名とメキシコ石油公社 (Pemex) の技術専門家 16 名を含む 82 名を乗せてキューバに到着して、消火に当たりました。

火災の 14 人の行方不明者の捜索と識別作業が行われましたが、絶対的な識別は不可能と発表されました。

18 日木曜日 キューバ全国で、18 日 06:00 から 19 日 12:00 まで公式喪中に服しました。



8 月 18 日午前 10 時現在、負傷者 146 名、うち 18 名が入院中、16 名が死亡、112 名が退院と発表されました。8 月 6 日未明、2 基目のタンクが爆発し、行方不明となっていた 14 人の名前が発表されました。犠牲者の名前は次の通りです。



1. アドリアーノ・ロドリゲス・グティエレス
2. アンディ・ミチェル・ラモス・ソトロンゴ

3. アレスキス・キンテーロ・オルタ
4. ディソスデル・ナスコ・バルガス
5. ファビアン・ナランホ・ヌーネェス
6. レオ・アレハンドロ・ドバル・ペレスデプラード
7. ルイス・アンヘル・アルバレス・レイバ
8. ルイス・ラウル・アギラール・サモーラ
9. ミCHEL・ロドリゲス・ラモン
10. オスレイ・マランテ・ゲーラ
11. オスマニ・ブラスコ・ソーサ
12. パブロ・アンヘル・ロペス・マルテル
13. ラシエル・アロンソ・マルティネス・ナランホ
14. ロランド・オビエド・ソーサ

ホルヘ・ゴンザレス・ペレス、キューバ法医学会会長は、記者会見で、「捜索・身元確認について、犠牲者の遺体を完全に確認することはできなかった。51 号タンク（通称 2 号タンク）周辺での専門家による作業の結果、14 グループに分けられた 754 個の小骨片が回収され、特性評価のために研究所に持ち込まれたが、しかし、遺骨が高温にさらされたため、指紋照合や歯の分析、DNA

鑑定は不可能であった。この結論は相談した海外の専門家からも支持された」と報告されました。

19 日金曜日 マタンサス超大型タンカー基地の火災で



殉職した人々の栄誉を称える葬儀で、ラウル・カストロ・ルイス革命軍将軍、ミゲル・ディアス＝カネル・ベルムデス、キューバ共産党中央委員会第一書記兼共和国大統領はじめ、政府幹部及び、一般市民が献花しました。

ニカラグア反帝ネットワークは、火災の見舞いに医薬品を送付することを発表しました。

8 月 21 日日曜日 ボリビアから、62 トンの人道支援物資が航空機で到着しました。

キューバ科学技術環境省は、火災による大気汚染は、調査の結果人体に悪影響を及ぼすものとはなっていないと発表しました。

CUBAPON は、支援カンパをまとめて届けることにしました。同封、案内をご覧ください。